

8. 中国（地域別調査機関：（社）中国地方総合研究センター）

（ - : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている	一般レストラン (店長)	来客数の動き	・客単価の高いディナータイムの来客数が3か月前より5%増加している上、メニュー内で高単価商品である和牛ステーキが非常に好調である。
	やや良く なっている	スーパー(総務 担当)	販売量の動き	・売上の伸びと客数・販売点数の伸びが同じ率で推移しており比較的安定している。
		スーパー(店舗 運営担当)	来客数の動き	・近隣に競合店が2店舗開店したにもかかわらず、来客数は前年比6%増加、売上は2.4%伸びた。しかし顧客一人当たり買上点数は依然として若干低い状態で推移している。
		コンビニ(エリ ア担当)	単価の動き	・客単価が現在104.5%と伸長しており、好調に推移している。台風特需もあったが、客数も101%と前年クリアしており、やや良くなっていると判断している。
		コンビニ(エリ ア担当)	販売量の動き	・今月は第1、2週と、台風被害需要、出雲でのイベントなどの特需的な受注がかなりあった上、月末になっても堅調に推移し、単価は低いものの安定してきており、売上は好調である。
		乗用車販売店 (統括)	販売量の動き	・9月の決算月は別としても、通常販売量や来店客数が少ない夏の時期に春と同程度の結果が出ており、景気は上向いていると考えられる。昨年と比較しても数字は良くなっている。また、新車購入時のオプション部品の取り付けも増加している。
		乗用車販売店 (サービス担 当)	販売量の動き	・新車の販売台数は前年を上回っている。サービスの売上も前年の100%となっている。
		自動車備品販売 店(経営者)	単価の動き	・先月に引き続き高額品の動きが良く、数量単価ともに前期実績を上回っている。
		その他飲食[ハ ンバーガー] (経営者)	単価の動き	・新商品の影響、買物点数のアップにより客単価が10%以上も上昇し、売上に結び付いている。
		通信会社(総務 担当)	それ以外	・大型台風の来襲に伴い、建設業等の受注は増加が見受けられるが、通信業では故障、修理等が多く、販売の稼働は落ち込んでいる。
住宅販売会社 (経理担当)	販売量の動き	・新規発売物件のモデルルームへの来場者数は大幅に増加しており、月末1週間前にもかかわらず今月の契約目標を既に達成している。		
変わらない	商店街(代表 者)	お客様の様子	・先月に引き続き、需要と供給のバランスがより供給過多で乖離してきており、価格が低下する一方である。 ・大型店出店ラッシュが続いているが、これらの店もここにきて売上目標値を下回る事態になってきている。このままの状態が続くようであれば、大型店の店舗閉鎖が予測される。	
	一般小売店 [茶](経営 者)	お客様の様子	・今月の売上は、全体的には前年比で良くなってきているが、7月8月の不振の反動とみられる。 ・顧客の状況は、先行き不透明感から財布のひもは固い。	
	百貨店(販売促 進担当)	お客様の様子	・季節の節目が例年より1か月遅かったためか、ようやく秋物商材が動き始めた。	
	百貨店(販売促 進担当)	販売量の動き	・化粧品、ブランド品を扱うブティックは顕著な動きを見せているが、主力の衣料品は月前半の残暑、台風などの影響により非常に厳しく、先行きは不透明な状況である。	
	百貨店(購買担 当)	お客様の様子	・天候不順により、秋物商品の動きが鈍い上に、セール企画を行ってもまとめ買いが少ない。来月上旬予定のプロ野球優勝セールの告知を競合店も含めすでに行っているため、買い控えが発生している状況も見受けられ、売上に結び付かない状態である。	
	百貨店(売場担 当)	販売量の動き	・月の前半はまずまずの推移であったが、中盤の優待会、月末の特紹会等の前年減が大きく、来客数はあるものの販売量が減少している。	
	百貨店(売場担 当)	お客様の様子	・台風の影響で来店客数が伸びなかった。 ・閉店時間繰り上げが1日あったので、その影響もあった。	

スーパー（店長）	お客様の様子	・台風の影響など天気の悪い日が多かったこともあるが、顧客がチラシなどで安い店で安い品物を買求め買い回りが定着し、来店客数が増加するものの客単価が前年を下回ったままである。
スーパー（店長）	単価の動き	・1人当たりの買上点数、客単価とも、先月、先々月と比べ大きな変化がない。
スーパー（店長）	販売量の動き	・販売点数は引き続き前年比102%で推移しているが、客単価がいまだに前年比97%で、全体売上は若干下回っている。
スーパー（店長）	単価の動き	・来客数は前年比の103%前後と増加しているが、一品単価及び客単価の下落が95%前後と推移しており、どうにか前年比100%を維持している状態である。
スーパー（店長）	単価の動き	・野菜が高値で単価が上がっている。全体的に単価アップが見受けられ、状況としては景気は変わらないか悪くなっていると思われる。
スーパー（経理担当）	販売量の動き	・猛暑が続いており、食料品においては、消費量が落ちこんでいる。
スーパー（販売担当）	単価の動き	・景気は上向いているように見受けられるが、台風の影響などで単価が上昇しているためあまり変化はないように思われる。
コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・来客数の大幅な落ち込みは見られないが、客単価は下降している。消費者は必要な物しか購入しない。
衣料品専門店（店長）	販売量の動き	・9月前半は台風の影響もあり、売上が非常に厳しかった。中半からはプライダル、特にスーツの売上が好調であったが、他のアイテムに関しては厳しい状況が続いている。
衣料品専門店（地域ブロック長）	単価の動き	・プライダル中心の動きでは、低価格要望客と高額客の二極化である。 ・ヤング層も、プライダル関連で、スーツが動いている。
衣料品専門店（地域ブロック長）	来客数の動き	・新商品の売行きは好調であるが、全体ではさほど上昇はしていない。
衣料品専門店（販売促進担当）	販売量の動き	・残暑や台風など天候の影響を受け消費者の需要にばらつきが見受けられた。
家電量販店（予算担当）	販売量の動き	・薄型テレビ、DVDなどの映像関連は好調であるが、IT関連商品の落ち込みが大きく全体では売り上げ減少となっている。
乗用車販売店（総務担当）	来客数の動き	・現在、目新しい物がないため、来客数が極端に減少しており、こちらから出かけて勧誘する以外、来店客はいない。
乗用車販売店（統括）	販売量の動き	・9月は需要月で、普段より販売量が多いが、前年との比較では93%であり、まだ良くなっているとはいえない。
乗用車販売店（販売担当）	販売量の動き	・新型車発売に関わらず、全体的に受注ベースが悪く、対前年比100%前後で推移し、苦戦している。
乗用車販売店（営業担当）	来客数の動き	・既納客の代替、或いは新規客の成約率は、決算月と言う事もあって伸びているが、絶対的な新規来場数が増えてこない。
住関連専門店（営業担当）	来客数の動き	・来客数が減少している。さらに来客されても販売するまでには至らず、非常に慎重にものを買われる傾向にある。
その他専門店【スポーツ】（店長）	販売量の動き	・前年と比べ全体の来客数はあまり変化が見られないが、天候の不順により日によって差が大きかった。
高級レストラン（スタッフ）	単価の動き	・低価格の商品の利用が若干増加している状況である。
一般レストラン（店長）	競争相手の様子	・大型ショッピングセンターの出店がめざましく、近隣のチェーン店舗では多大な影響を受けて二けたダウンの店も出ている。客単価は上昇傾向にあるが、客数の減少が大きく歯止めがきかない。大型ショッピングセンターは景気が良いのか新規の出店が顕著にみられる。
観光型ホテル（スタッフ）	単価の動き	・客数は若干上昇しつつあるが、客単価が横ばいからそれ以下で推移している。
都市型ホテル（スタッフ）	単価の動き	・宿泊ではインターネットでの予約が増加しているが、低単価競争となっているため売上が伸びない。

	都市型ホテル (従業員)	来客数の動き	・先月に引き続き、レストランの来客数が横ばい状態である。
	タクシー運転手	販売量の動き	・8月は高校総体などにより若干持ち直したが、今月に入り主だった行事もなく苦戦している。
	タクシー運転手	単価の動き	・企業における経費削減によりタクシーチケットの減少、長距離の減少、最高利用金額の設定などにより1回当たりの単価が減少している。個人においても公共の交通機関の利用者が増加している。
	通信会社(経営者)	お客様の様子	・加入契約数がここ数か月の実績から低下したままであり、かつ解約も増加しており、純増加数が低迷したまま推移しており、増加の兆しは見受けられない。
	通信会社(企画担当)	競争相手の様子	・同業者のキャンペーン展開を見ていると、これまでと比較して多少手控える方向がみられる。
	通信会社(広報担当)	競争相手の様子	・契約者数の増加傾向の鈍化は他社も同様であるが、そのなかにあっても他社の増加数が若干多い。
	通信会社(通信事業担当)	販売量の動き	・新規顧客の獲得数の伸び悩みに加えて、解約数も増加傾向にあるので、純増加数がなかなか増えないのが現状である。
	テーマパーク (広報担当)	来客数の動き	・来客数は若干上向きになったが、今までの落ち込みを改善できるほどではない。
	その他レジャー施設[温泉センター](営業企画担当)	来客数の動き	・日帰り温泉部門は、例年に無く客動員面で厳しい状態が続いている。8月末と9月頭の台風の来襲、残暑の影響や最近の温泉地の不信感を与える報道など、営業面において逆風を感じている。ホテル部門も、予想以上の動員の減少で危機感が募っている。
	設計事務所(経営者)	お客様の様子	・売上の減少に歯止めがかからない。
やや悪くなっている	商店街(代表者)	来客数の動き	・中心市街地の沈下が激しく、来街者数が極端に減少している。当商店街に隣接する駅前を通りも一般小売業の店が閉まり、消費者金融と居酒屋が並ぶ駅前に様変わりしてきた。
	商店街(代表者)	販売量の動き	・過去、日銀等は景気が上向いていると報告しているが、物販業は景気が良くなっているという実感は全くない。単価はともかく来客数、販売数が減少しているという実感を持っている。
	商店街(代表者)	来客数の動き	・販売量自体が落ち込んでいる。来客数が減少している理由は競争店があるためではなく、景気自体が非常に悪いため冷え切っている感じが強い。
	商店街(代表者)	来客数の動き	・商店街の来街者、来店客がますます減少しており状況は非常に悪い。
	一般小売店[書店](経営者)	来客数の動き	・台風等の影響により来客数が減少している。
	一般小売店[印章](営業担当)	来客数の動き	・最近では会社開設などの注文が減少し、全体的に景気に活気が見られない。
	百貨店(売場担当)	販売量の動き	・台風以降、ミセス衣料品が極端に不振となり前年比80%で推移している。前期から好調であった紳士衣料品も鈍化し前年比以下になってきている。前年好調であった婦人ブーツの売上も前年比60%と非常に厳しく、店舗全体でも前年比95%前後で推移している。
	百貨店(売場担当)	販売量の動き	・パンプスの動向は例年と比べ変化が見られないが、気温のせいかわブーツの販売量が例年の6割程度にとどまっており、全体の売上が落ち込んでいる。
	スーパー(管理担当)	単価の動き	・客数に変化はないが、売上が若干落ちている。客単価に変化がみられる。
	コンビニ(エリア担当)	来客数の動き	・天候不順要因もあるが、3か月前に比べて来店客数が落ち込んでいる。3か月前は前年を大幅に上回っていたが、前年並みになっている。
	衣料品専門店(地域ブロック長)	販売量の動き	・大型台風が続けて上陸したことと残暑のため、秋物商品の動きが悪い。
	家電量販店(店長)	販売量の動き	・台風の被害地域は、被害需要で売上が良い。 ・野菜、魚など食品が高騰し、いまなお、財布のひもは固い。
	家電量販店(店長)	販売量の動き	・台風の影響もあり、パソコンの新製品はあまり売行きが良くない。オリンピック需要のテレビの売上は前半は良かったが、閉幕すると売上は下がり総合的に見ると悪くなった状況である。

	乗用車販売店（経営者）	お客様の様子	・顧客の動きが、先行き不透明感からか、少し買い控えの状況が見受けられる。	
	住関連専門店（広告企画担当）	単価の動き	・最近何度も記入している内容だが、引き続き、単価のダウンが止まらない。	
	スナック（経営者）	単価の動き	・猛暑のため、顧客の外出が鈍り、顧客の年齢層が高いこともあり、影響を受けた。	
	都市型ホテル（総務担当）	販売量の動き	・先月辺りまでは売上は例年と比べて増加傾向にあったが、ここのところ売上、販売、受注ともに減少傾向の状況にある。	
	タクシー運転手	お客様の様子	・台風の被害を受けた顧客からは、飲んでいない場合じゃない、という声や、燃料関係の顧客は、ガソリン店の閉鎖などで大変とか、景気のいい話が最近聞こえてこない。 ・売上の的には横ばいである。	
	テーマパーク（財務担当）	来客数の動き	・前年と比較すると、雨天の影響が非常に大きく出ていると思われる。	
	テーマパーク（業務担当）	お客様の様子	・台風、長雨等天候不順により、秋の行楽シーズンではあるが屋外レジャースポットの来園者は減少している。 ・最近2リットルのペットボトルのゴミが多い。	
	ゴルフ場（営業担当）	来客数の動き	・客単価も安いほうに流れる状況にある。	
	競艇場（職員）	来客数の動き	・台風などの悪天候の影響があった。	
	設計事務所（経営者）	来客数の動き	・来場客が増加せず、売上単価も減少しており、相対的に悪い。	
	住宅販売会社（従業員）	来客数の動き	・来場者数は、ここ数か月は緩やかな下降線をたどっていたが、気候もよくなってきたのに今月は約2割減の状況になっており、また広告による集客も今一步来場数に反映されない状況であった。	
悪くなっている	商店街（代表者）	来客数の動き	・今月、先月の3つの台風の来襲が大きく影響を及ぼしている。	
	百貨店（販売担当）	競争相手の様子	・競合店のリニューアルにより売上が前年比で5%から7%下回っている。	
	その他専門店〔時計〕（経営者）	単価の動き	・台風など天候の影響もあり、来客数も減少している。	
	その他専門店〔書籍〕（従業員）	販売量の動き	・台風の影響で売上減少の日が続いている。期待していた大型新作商品も思ったほど売上が伸びず低調な動きが続いている。	
	美容室（経営者）	来客数の動き	・台風の影響により1週間が営業できなかったため、来客数が減少する結果となっている。	
企業動向関連	良くなっている	輸送用機械器具製造業（経理担当）	受注価格や販売価格の動き ・長期展望に比べ、コストと販売価格のバランスは大きく改善されつつある。	
	やや良くなっている	食料品製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・8月は例年通り商品の動きが悪かったが、9月に入り各メーカーとも例年に比べ新商品の販売を1か月程度早めた影響で、商品の動きが良い傾向にある。
		化学工業（総務担当）	受注価格や販売価格の動き	・先月と大きな変化はなく、生産量、出荷量共に増加傾向にある。社内は全般に高稼働率だが、デフレ圧力に加え物流費・原燃料費等の高騰により利益が上がりにくい状況である。
		化学工業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・自動車関連及び電機業界の好調の影響がまだ続いている。
		一般機械器具製造業（経営企画担当）	受注量や販売量の動き	・国内および海外において、自社製品の売上が好調に推移している。
		電気機械器具製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・自動車部品は底固く前年比120%受注が入っている。家電も欧米向けを中心に安定しているが、携帯電話は、秋モデル冬モデルまで一服感がある。
		輸送業（統括）	取引先の様子	・進行中の市町村合併関係での新しい見積り依頼が多く寄せられている。
		金融業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・受注の金額については以前のような卸売でもまとまった単位での受注はないが、小口で金額、発送回数が増えた受注が卸売業においてみられる。特に建築業において鋼材等の受注がみられる。

	金融業（業界情報担当）	取引先の様子	・輸出を中心とした主力車の販売好調を背景に、生産はフル操業を持続。単価引下げ要請と原材料価格の上昇から収益面は厳しいが、量産効果で何とかコストアップを吸収できている。設備投資には積極的に対応している。	
変わらない	食料品製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・ダイレクトメールなど広告によって売上は今までになく上昇しているが、一時的効果のみで、今後の先行きは見えない。	
	木材木製品製造業（経理担当）	取引先の様子	・卸売業自体は上昇してきているが、顧客の消費支出に影響を及ぼすほどの力強さは感じられない。全体的に景気が回復するのはもう少し時間がかかると見込んでいる。	
	窯業・土石製品製造業（総務経理担当）	受注量や販売量の動き	・生産水準は飛び込み受注や大型案件の受注により、高水準で推移している。また時間外労働も高水準である。	
	鉄鋼業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・鋼材需要が国内では製造業向けを中心に引き続き堅調であるとともに、輸出においても中国の自動車販売の伸びに一服感はあるものの日系メーカーは堅調を継続している。その他の地域・分野も堅調である。	
	非鉄金属製造業（経理担当）	取引先の様子	・取り扱う商品によって売上に差がみられる。	
	その他製造業〔スポーツ用品〕（総務担当）	受注量や販売量の動き	・スポーツ関連商品は予算割れの状態である。	
	建設業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・台風被害需要で部分的に忙しい点もあったが、依然として仕事量との兼ね合いで、適正価格になっていないことから、景気という点では最低な状況を脱していない。	
	通信業（社員）	受注量や販売量の動き	・既存のお客様の受注継続分は昨年並み程度にはどうにかクリアできると思われる。	
	通信業（営業企画担当）	受注価格や販売価格の動き	・法人向け通信サービスの受注動向は低価格商品主体で、价格的にあまり変動はみられないが、最近、品質などのサービス内容を重視する動きが目立ち始めており、提供業界側にとっては厳しい状態が継続している。	
	会計事務所（職員）	取引先の様子	・販売はやや低調、製造はやや好調なものの、その他業種を見ても、これといった目立った兆候は見えてこない	
	コピーサービス業（管理担当）	受注量や販売量の動き	・上期の締め月であるが、受注量は前年同期減少している。通年、9月で4～8月の不足を補う計画（後半上昇計画）になっているが、今年度は補える状況ではない。	
やや悪くなっている	金属製品製造業（総務担当）	それ以外	・受注量は先月と同様に好調に推移しているが、原料の高騰が懸念される。直撃した台風18号により工場がかなりの打撃を受けているため、会社の損益、特別損失の発生が予想される。	
	建設業（営業担当）	受注価格や販売価格の動き	・事業主の計画予定と実際にかかる建設費の差が20%近くまで広がってきているため、受注に足踏みがみられる。	
悪くなっている	農林水産業（従業者）	それ以外	・8月は夏枯れとあって例年水揚げが減少する。今年も漁が不良のため、ほとんどの船団は1週間前後の検査に入り、水揚げ減少に追い討ちとなった。また、本年は日本海に3つの台風が襲来し、沖合底引船は避難のため帰港せざるを得ない状態になり、操業時間も減少した。	
雇用関連		-	-	
	良くなっている			
	やや良くなっている	人材派遣会社（支店長）	求人数の動き	・台風被害の影響は、損保会社を中心に一過性ながら雇用を引き上げたが、求人全般は底力がでてきた感がある。
		求人情報誌製作会社（編集者）	採用者数の動き	・新卒の合同求人説明会は9月で終了したが、企業側から10月の開催要望もある。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・レンタルビデオ店や書籍販売業などの新規店舗開店に伴う大量求人があったことに加え、警備業や業務請負業からまとまった求人があったため、求人数は前年比で増加傾向にある。	

	学校[大学] (就職担当)	求人数の動き	・例年に比べて、再求人、追加求人が多く、秋採用の時期と重なり求人が伸びている。
変わらない	人材派遣会社 (経営者)	求人数の動き	・人材派遣の需要は堅調で、幅広い職種に広がってきているが、企業の雇用に対する姿勢は慎重で、有期雇用社員を増やす傾向はあっても、雇用全体の力強さに欠けている。
	職業安定所(職員)	求人数の動き	・求人数の増加傾向に限りが見られる。
	職業安定所(職員)	雇用形態の様子	・景気は回復基調というものの先行き不安な面があるためか、新規求人のうち3割近くが派遣、請負、臨時求人が占めており安定した就職は難しくなっている。
	職業安定所(雇用開発担当)	求人数の動き	・求人数の伸びが鈍くなっているなか、請負派遣求人は増加傾向にある。
	民間職業紹介機関(職員)	雇用形態の様子	・求人数は増加しており企業の採用意欲は高いが、反面、正社員雇用を前提に進んでいた話が契約社員、試用期間(トライアルという意味)付きなどに変更するケースが増えてきた。
	民間職業紹介機関(職員)	採用者数の動き	・求人はあるが、求人条件のハードルを企業が下げないあるいは、それに見合う人材が少ないため就職者数の増加に結び付かない。
	学校[短期大学] (就職担当)	採用者数の動き	・学生からの内々定の報告数が一向に伸びず、各企業の採用活動があまり活発化していない様子が覗える。地域各企業の人事担当者から聞き及ぶ限り、一部の業種を除いては景気は足踏みの状態で、雇用や採用面に関してはなお慎重姿勢が覗える。
やや悪くなっている	-	-	-
悪くなっている			